

「情報業界の集団就職を 東北からなくす」



株式会社東北システムズ・サポート
(仙台市)
代表取締役社長

伊藤 隆 充

愛される都市 盛岡

当社は1976年に宮城県仙台市で創業した情報サービス企業です。ソフトウェアの受託開発とRFIDなど無線技術を使う機器販売及びシステムソリューションを行っています。私の目標は「東北の子供たちが地元で就職できるようにする」ことであり、「情報業界の集団就職を東北からなくす」ことです。

盛岡事業所は2012年に開設し、今年2月に場所を盛岡駅前に移し増床しました。オフィススペースを100坪に増床したり、自社ビル建設用の土地を取得するにあたって、多くの方から「なぜ盛岡なんですか?」と聞かれました。まるで恋人が「なぜ私を好きなの?」と尋ねるようなトーンで聞かれるので当初は身構えたものです!盛岡は北東北3県の文字通り中心。地理的な優位性もありますが、ビジネス視点では情報系の学生を豊富に輩出する魅力があります。

「なぜ盛岡なの?」と聞く人は、ご自身が地元愛に満ち溢れているんですね。通常大都市になると地元に対する愛着は少なくなるのですが、盛岡は違います。地元愛の強さにかけて仙台は盛岡の足元にも及びません。今後もソフトウェア開発を盛岡でも拡大し、IoTビジネスを盛岡から全国へ発信します。

大志を生む岩手

岩手県は東北で唯一、4人も総理大臣を輩出しており、全国でも山口県と東京に次ぐ多さです。そうそうたる事業家もいます。食べ物だけ取ってみても、大好きなモスバーガーもびっくりドンキーも岩手発。個人的にはじゃじゃ麺が大好きで、週に一回は食べたくなります。最近、内容の濃いマルクスの本を買いましたが、著者は盛岡市役所OBの方でした。個人的に研究されて、この内容は凄いと感嘆しました。

東北他県が総理大臣ゼロである理由はわかりませんが事実、岩手が突出しています。岩手県は問題解決志向の強い大志を持った人物を育む土地柄なのでしょう。

賢治の想い

宮沢賢治は、東北・岩手の原点である農業が辛く厳しいものであるという状況を改善するため研究に没頭しました。いわば「東北はどうあるべきか」「岩手はどうあるべきか」に思いをはせた偉人です。中央のルールをまるごと地方に当てはめない現実家でもあったわけですね。

中央のルールというのは、全体で善策のような理由付けがされていても、実態は自己中心のであったりします。数年前から経団連が採用解禁ルールを言い出しましたが、私が学校に出向き、学生に就職関連の講話をする際は「これは中学校のクラスで一部の声の大きい生徒が勝手

にクラス全体のルールを決めるのと同じ」と説明しています。

「就活」というのは早く決まる学生はすぐに決まるし、どこか内定が出ても欲を出していつまでも就活を続ける学生は長くなる。解禁日を設定したところで、全学生の就活期間が短縮するわけではなく、就活のピークがどこにくるかの違いだけです。大雑把に言えば第一志望者が大勢を占める大手企業が恩恵を受ける仕組みです。マスコミもこの経団連の方針を「守る企業」

「守らない企業」という表現をしています。これはおかしな話です。NHKのニュースでも「外資とITが守らない」とか言っているのでビックリしました。外資の友人なんかは「関税障壁よりひどいローカルルール。こんなことまで首相が首を突っ込むのか」と呆れてました。もともと大企業グループの友人も「本社も付き合わされているだけで、子会社はもつと迷惑」と言っています。皆が疑問を抱きながらも始まって最後は形骸化する見本じゃないかと思えます。プレミアムフライデーもどうなんですかね？

しかし、学校としては、大企業の就職実績は少子化の影響もあって生徒募集面で重要ですから、とりあえず解禁には追従します。教員の方の中には心ある人もいて地元定着に向けて頑張っているのに可愛想です。結局、人口減少が深刻な今でも、肝心の親や学生本人が首都圏の大企業就職万歳指向だとすれば、残念です。「いつか地元に戻ってきて」も、人口が減れば仕事

も減るのが当たり前ですから、その未来の地元の仕事があるかわかりません。

人口増加・経済成長を前提とした価値観やルールに地方が右にならえの状況を賢治はどう思うでしょうか？やはり働く場所を増やすしかないと思います。地元で就職先が充分あれば、親も地元で就職させたいし、学生も地元で就職したいんです。こういう雇用の根源的な問題の解決改善は経営者の責務です。

理想のコンパクトシティ

東北6県で理想のコンパクトシティを実現できるのは盛岡だけではないでしょうか？都市設計が専門ではないので軽々に物申せませんが、良し悪しは別として、今やイオンなどの総合生活モールの存在を無視して地方都市を設計することは現実的じゃないと考えると、盛岡は30万人超の人口規模でイオンモールの位置が良いと思います。

また、盛岡に限らず再開発という点では、戦後早くから栄えた界隈の建物ほど老朽化が進んでいます。便利な場所にあるのに街並みが古い。古い建物の多い場所の解体・建て直して街は生まれ変わっていきませんが、ここでネックになるのが、解体前提で古い建物を取得した場合、解体費用を土地代に合算しなくてはいけない税法ルールです。アスベストが建物全体に使われていたりすると解体費用は土地代を上回る事さえあります。解体費用を償却できないルールでは

企業は解体建て直しの投資に二の足を踏み、企業活力を包含した再開発が加速しません。

現状を直視した国のルール改定も必要ですが、実行力のある岩手県や盛岡市が主導して再開発が進むことを期待します。盛岡駅を中心に西と南ではイオンを軸とした開発が進んでいますが、駅から東側、歴史ある開運橋からバスセンターまでが、美しい岩手山の景観を守りながら、どんな魅力ある街並みになっていくのか今から楽しみです。

地元で就職する当たり前

大好きなこの盛岡でも雇用を拡大し続けた。「東北の子供たちが地元で就職できるようにする」ことは「親の面倒を見られる」ことでもあります。

私自身は東京生まれの千葉県育ちです。関東や関西の学生は「地元（近隣都府県）就職」が当たり前。東北の学生にも「地元（近隣県）就職」が当たり前の環境をつくってあげたい。「仕事があるから首都圏に行けばよい」のではなく、困難でクリアすべき課題が多くても愚直に「地元で仕事ができること」にこだわりたい。当社の平均年収は東北6県平均の340万円を上回り、ここ数年は賞与も順調なので関東平均の480万円に迫っています。きれいな事ではなく、盛岡や仙台で生活しながら中央の所得レベルが実現できることを目標に今後も努力精進、具現実行あるのみです。